



街の中にいつも大学病院

病院長 しいな ひろあき
椎名 浩昭

令和7年度文部科学省補正予算「大学病院機能強化推進事業」において、当院が申請した事業『街の中にいつも大学病院』が採択されました。

本事業では、大学病院がこれまで以上に地域とつながり、地域医療を支える役割を強化してまいります。具体的には、地域の医療機関や関係機関との連携をさらに深めるとともに、基礎医学と臨床医学の連携を強化し、診療の中で得られる医療データを研究や医療の質向上に活用していきます。これにより、病気の重症化を防ぐための取り組みや、急性期治療を終えた患者さんが地域で安心して療養を続けられる仕組みづくりを進めてまいります。

また、大学病院の重要な使命である医療人材の育成にも力を入れ、地域で活躍する医師や医療スタッフの育成、循環、定着を図ります。これらの取り組みを通じて、島根大学医学部附属病院が、地域医療の「最後の砦」としての役割を今後も果たし続けられる体制を整えてまいります。

本事業を契機として、教育・研究・診療・地域医療を一体的に結び、大学病院の知識と力を地域に還元する『知と地の連携モデル』を構築していきたいと考えております。そして、地域の皆さまとともに、持続可能な島根の医療の未来を創ってまいります。

今後とも、島根大学医学部附属病院へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



NEWS



CONTENTS

- ・教授就任のご挨拶
- ・膵・胆道疾患センター長を拜命いたしました

表紙：産科・婦人科 教授 金崎 春彦

裏表紙：街の中にいつも大学病院



教授就任のご挨拶

循環器内科 教授 なかむら かずふみ
中村 一文

このたび、2026年4月1日付で島根大学医学部内科学講座内科学第四（循環器内科）教授を拝命いたしました中村一文と申します。田邊一明教授が長年にわたり築いてこられた循環器内科を引き継ぐ機会を頂き、身の引き締まる思いです。

私は1993年に岡山大学を卒業後、岡山大学循環器内科に入局し、循環器疾患の診療・研究・教育に携わってまいりました。心不全、心筋症、アミロイドーシスなどを専門とし、循環器疾患全般の診療を行っております。前任地の岡山大学病院では、重症心不全センター教授として、重症心不全や難治性心疾患の診療に従事しておりました。

現在、心不全患者は増加しており、「心不全パンデミック」とも呼ばれる時代を迎えています。島根におきましても、軽症から重症まで幅広い心不全診療に丁寧に取り組み、温かみのある医療を提供したいと考えております。また、弁膜症や先天性心疾患に対するカテーテル治療、高血圧に対する腎デナベーション、アミロイドーシスに対する特異的治療など、先進的な循環器診療にも積極的に取り組んでまいります。さらに、高齢化社会を見据え、アドバンス・ケア・プランニングを含めた、患者さんに寄り添う医療も大切にしていきたいと思っております。

「街の中にいつも大学病院」をテーマに、地域医療に貢献するとともに、将来の島根の医療を担う若手医師の育成にも力を尽くして参る所存です。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



問い合わせ先 内科学講座(内科学第四)事務室 TEL:0853-20-2206

膵・胆道疾患センター長を拝命いたしました

膵・胆道疾患センター センター長 ふくば のぶこ
福庭 暢彦

このたび当院では、膵癌、胆道癌などの膵胆道疾患の増加に対応し診療体制を強化するため、「膵・胆道疾患センター」を開設し、そのセンター長を拝命いたしました。

膵胆道疾患は早期診断が難しく、高度な専門性を有する領域です。当センターでは、消化器内科を中心に、肝・胆・膵外科、放射線科、看護部門と連携し、最適な診療方針を提案します。(図1、2)

診断や治療の難しい症例であっても地域の先生方から相談・紹介いただきやすい体制づくりを進めています。主な取り組みは以下のとおりです。

- ① **新患受付枠の増加**
6月から消化器内科の特殊外来に「膵・胆道疾患センター」を水曜午前に増枠します(7月以降、火曜午前、金曜午後も開設予定です)。(※予約申込書の「特殊外来」に「膵・胆道疾患センター」と明記ください)
- ② **肝・胆・膵外科や放射線科との連携強化**
定期カンファレンスで多角的な症例検討と迅速な治療方針決定を行います。
- ③ **地域医療との連携強化**
専門医が不足している地域医療機関へ診療支援システムを構築し、適切な診療への橋渡しを円滑に行い、島根県全体の膵胆道疾患診療の質向上に貢献します。



図1
(上) 内科では超音波内視鏡を用いた経緯的な胆管ドレナージを行っています。
(下) 外科は高度な手術を安全に行います。



図2

問い合わせ先 (予約について) 地域医療連携センター TEL:0853-20-2061
(診療内容について) 内科学第二医局 TEL:0853-20-2190



ご報告



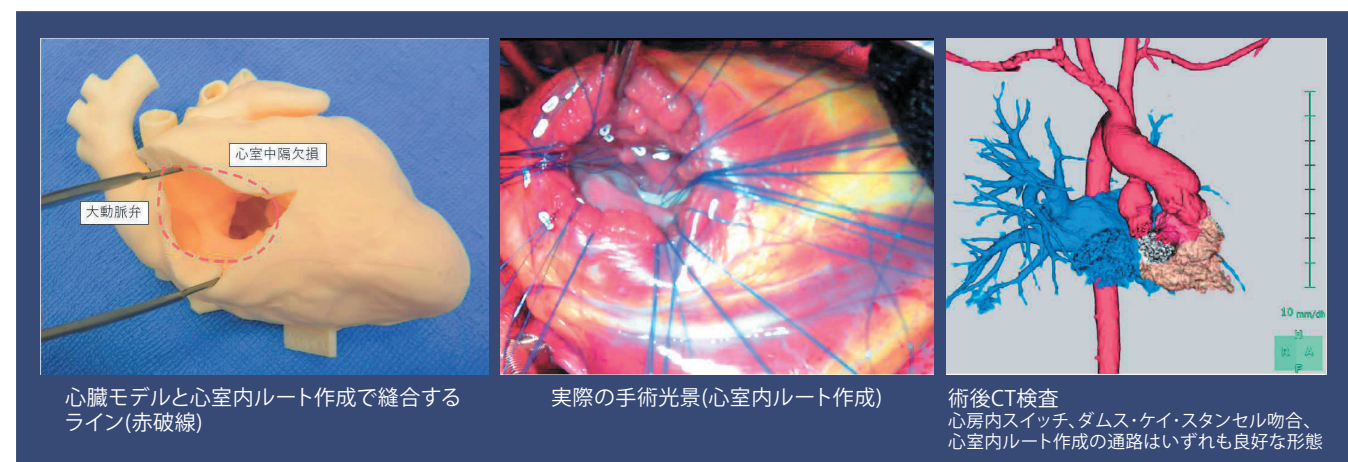
軟質実物大3D心臓モデル(手術計画支援心臓模型)を参考に手術を成功させました

小児心臓血管外科 教授 なかた ともひろ 中田 朋宏

複雑心奇形の外科治療において、カテーテル、エコー、CTなどの従来の検査では、診断や術式の細かな決定が難しい疾患群に、2025年5月よりMediprex®軟質実物大3D心臓モデルが保険収載され、当院でも新規採用を行いました。造影CT検査のデータから再現されるモデルで、術前に手術のイメージが出来、また切開縫合なども可能です。

今回は、修正大血管転位症、肺動脈弁狭窄、心室中隔欠損、左上大静脈遺残に対する、ヘミ・ダブルスイッチを予定したお子さんで心臓モデルを作成し、しっかりと術前シミュレーションを行ってから手術に臨みました。手術の内訳は、①心房内スイッチ(ヘミ・マスタード手術)、②心室中隔欠損拡大、③ラステリ手術(心室内ルート作成+右室-肺動脈導管作成)、④ダムス・ケイ・スタンセル吻合、⑤両方向性グレン手術を同時に行う手術で、4時間を超える心停止時間、14時間近い手術時間となりましたが、術後経過は良好で、心臓内で複雑に再建された形態も良好であり、術後3週間で元気に退院されました。

我々は山陰唯一の小児心臓外科手術を実施する施設として、これからも新しい技術も積極的に取り入れながら、先天性心疾患を持つ患者さんの外科治療に尽力いたします。



心臓モデルと心室内ルート作成で縫合するライン(赤破線)

実際の手術光景(心室内ルート作成)

術後CT検査
心房内スイッチ、ダムス・ケイ・スタンセル吻合、心室内ルート作成の通路はいずれも良好な形態

問合せ先 循環器外科医局 TEL: 0853-20-2225



お知らせ



産後の女性職員を対象に健康教室開催のトライアルを開始します!

リハビリテーション部 部長 まにわ そうきち 馬庭 壯吉
療法士長 えくさ のりまさ 江草 典政
理学療法士 ふくたに さやか 福谷 早耶香

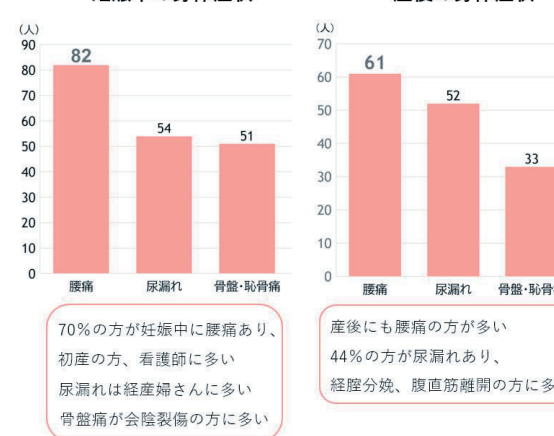
「誰もが働きやすい社会を目指す」ことは現代社会の重要な目標の一つです。そのような中で、妊娠中や産後に就業を継続する割合は増加していますが、体の痛みや心理的な不調が仕事復帰を妨げる原因の一つとなっています。

当院でも女性職員を対象としたアンケート結果から妊娠中・産後にさまざまな症状を抱えながら診療業務に従事している現状が明らかとなりました(図)。また、これらの症状に対して姿勢・体の使い方、腰痛予防の体操、骨盤底筋体操、骨盤ベルトの使用法、抱っこ紐・スリングの使用法などの指導を希望していることがわかりました。

リハビリテーションの専門分野である理学療法の中に「ウィメンズ・メンズヘルス理学療法」という領域があります。女性のライフステージの中で起こる様々な健康問題に対してリハビリテーションサービスを提供するもので、妊娠中・産後の身体症状への対処法として職員が希望している上記項目についても支援することが可能です。そこで、当院の女性職員を対象として産後の身体症状を緩和し、心身共に健康な生活を獲得することを目的とした健康教室を企画しています。

本格的な始動に向けて、まずは数名を対象としたトライアルを実施することとなりました。産後の就業の妨げとなる腰痛や体力低下、生活の質を低下させる尿漏れ、出産に伴い崩れてしまった姿勢の改善に向けた集団指導を計画しており、より良い形で職員へ提供できるよう進めて参ります。

図 妊娠中・産後の身体症状に関するアンケート結果



70%の方が妊娠中に腰痛あり、初産の方、看護師に多い
尿漏れは経産婦さんに多い
骨盤痛が会陰裂傷の方に多い

産後にも腰痛の方が多い
44%の方が尿漏れあり、経産婦、腹直筋離開の方に多い

妊娠中・産後に希望する指導や情報提供

- 姿勢・体の使い方
- 骨盤ベルトの使い方
- 腰痛予防の体操
- 骨盤底筋体操
- 抱っこ紐・スリングの使用法

理学療法士による支援が可能

問合せ先 リハビリテーション部 TEL: 0853-20-2457





ご報告

入院編

患者満足度アンケートの自由記述(お褒めの声)から読み解く改善の手がかり

患者満足度向上WG
かわむら としひこ
医療情報部 准教授 河村 敏彦

当院では、入院患者さんを対象とした患者満足度アンケートを実施しており、2025年度も多くの自由記述が寄せられました。本稿では、謝意のみの記述を除いた254件を対象として「お褒めの声」に着目し、患者さんがどのような点を評価しているのかを分析しました。

その結果を見ると、「安心」が121件(47.6%)、「接遇」が89件(35.0%)と突出して多く、この2項目で全体の約83%を占めていました(図)。「優しい」「丁寧」「親切」「笑顔」といった表現が接遇に関する記述として繰り返し見られ、それらが安心感につながっていることがわかりました。

また、「説明」に関する記述は10件(3.9%)と多くはありませんでしたが、丁寧な説明や傾聴に関する声も見られ、安心感に関わる要素の一つとして捉えることができます。

「食事」は16件(6.3%)、「運用(設備・環境)」も15件(5.9%)と、一定の評価が見られた一方で、「連携」は3件(1.2%)と少数であり、医療者間の連携は患者さんにとって当然のものとして受け止められていると考えられます。

以上より、当院の強みは接遇を通じて形成される「安心感」にあると考えられます。今後も「接遇・安心・説明」の好事例を院内で共有して標準化を進めることで、患者満足度の向上につなげてまいります。

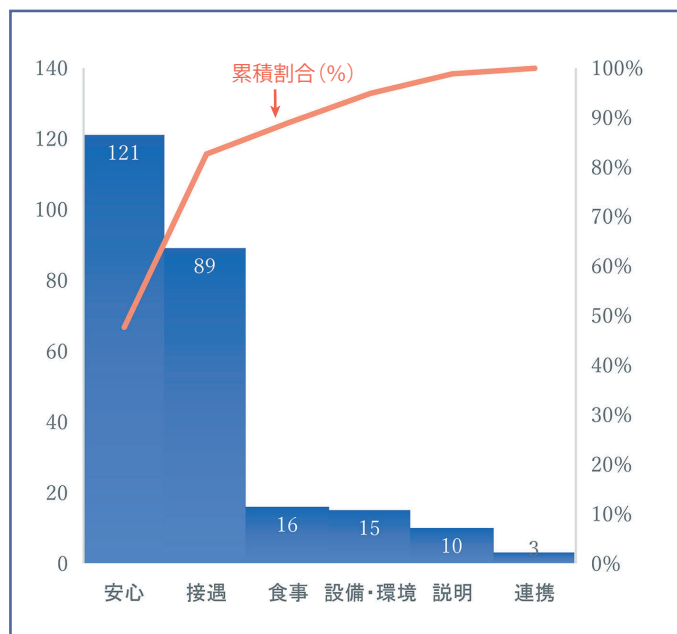


図 自由記述(お褒めの声)の分類別出現件数

問合せ先 医療サービス課 TEL: 0853-88-3401



ご報告



こどもの日の花火

C病棟6階(小児病棟) 看護師長 かげやま みほこ 陰山 美保子
病棟保育士 つばき あつみ 椿 敦美

毎年恒例の「こどもの日の花火」が、今年も2026年5月5日(火)に開催されました。

「入院している子どもたちにもこどもの日を楽しんでほしい」と、出雲市大社町在住の花火師 多々納恒宏さんらのボランティア団体「こどもの日花火の会」によるイベントです。天候に恵まれ、神戸川中州より打ち上げられる花火を小児病棟のプレイルームや病室から見ることができました。こどもの日の花火のプレゼントは20周年を迎え、年々打ち上げられる花火の数が増えていき、550発となり一層迫力が増しました。

真正面から見る花火は打ち上がる音にも迫力があり、花火が上がるたびに「おお、上がった!」「きれいーい」「あの花火、ニコちゃんだ!」など歓声が沸いていました。中には初めて花火を見るお子さんもいて、大きな音に少し驚く様子もありましたが、興味深そうにじーっと花火を見ていました。手術後で活動に制限がある子ども、ご家族と一緒に楽しむ姿がありました。花火の後の感想では、「サイコーだった」と笑顔が輝いていました。

入院生活は、社会的な孤立状態を感じやすく、子ども達にとっての行事は、社会とのつながりや季節を感じる大変貴重なものです。花火終了時、花火師さん達が手にされた懐中電灯をくるくると廻して送られる合図の赤い光も、暗闇に映えていて、とても温かみを感じられるものでした。

小児病棟以外に入院中の患者さんも、花火を楽しまれたのではないのでしょうか。花火師さん方、花火の寄付をしてくださる方々に感謝を申し上げます。素晴らしい花火をありがとうございました。

問合せ先 小児病棟 TEL: 0853-20-2616





島大病院ニュース 2026年6月

ご報告



出雲市民フォーラム2026春を開催しました

総務課企画調査係

2026年4月26日(日)に医学部臨床大講堂にて、「生活の質について考える」をテーマに、今年度最初の市民フォーラムを開催し、約150名の方に来場いただきました。

はじめに、内分泌代謝内科の金崎啓造教授が、肥満の分類や肥満症の発生要因、肥満症の治療法について説明しました。肥満は自己責任によるものと考えられがちですが、遺伝や環境などに起因することもあり、正しい理解と治療が必要になることを訴えました。



次に、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の坂本達則教授が、難聴は日常生活への影響だけでなく、認知症など将来に及ぼす影響があることを紹介しました。各疾患の治療法や、補聴器を実際に使用するまでの流れについてもわかりやすく解説しました。さらに、「こどものきこえサポートセンター」設立について紹介しました。

最後に、眼科の谷戸正樹教授が、緑内障の治療法について、薬物・レーザー・手術の3つに大別して説明しました。当院は一部の手術法において、国内トップの実績であることが報告されました。

質疑応答では、ご自身やご家族の治療に関する具体的な質問が多く寄せられ、活発な意見交換が行われました。最後に、椎名病院長から地域医療を担う当院の役割と現状についての説明もありました。

次回は6月14日(日)に出雲で周産期医療をテーマに開催予定です。

問合せ先 総務課企画調査係 TEL: 0853-20-2531



2026年6月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2026年6月

お知らせ



ラジオ収録風景 2026年5月放送/集中治療部 二階教授、宇賀田助教


「島大病院みみよりラジオ」のご案内

総務課企画調査係

当院では、地域の皆様に最新の医療情報や当院の取り組みをお知らせするため地元ラジオ局「FM いずも」にて「島大病院みみよりラジオ」を放送しています。2023年10月の放送開始以来、総勢36名の職員が出演し、昨年5月からはフリーペーパー「リビングしまね」で放送の告知も掲載しています。

出演者が、専門の疾患や診療についてわかりやすくお話しするとともに、自身の経歴や趣味・特技を紹介するなど、楽しくお聴きいただける番組となっています。


YouTubeでの聞き逃し配信も行っていますので、ぜひお聴きください!



島大病院
みみより
ラジオ

SHIMANE UNIVERSITY HOSPITAL
MIMIYORI RADIO

【放送日】 毎月第2・4木曜日
17:15 ~ 17:30
※第2木曜日が初回放送
第4木曜日が再放送
【放送局】 FM いずも (80.1MHz)



みみよりラジオ
YouTube

問合せ先 総務課企画調査係 TEL: 0853-20-2531



2026年6月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2026年6月

ご報告



島大病院ニュース 2026年6月

ご報告

転倒・転落対策ワーキング —2025年度の発生率を全国平均以下にしました!—

転倒転落対策ワーキング リーダー (リハビリテーション科) たてぬま たく 蓼沼 拓

患者さんが入院中に転倒・転落すると、骨折などにより治療の中断、活動性の低下、入院期間の延長につながる場合があります。

当院では2022年から「転倒・転落対策ワーキンググループ」を設置し、看護師、医師、薬剤師、療法士など多職種で対策を進めてきました。主な取組として、不眠時頓服薬の見直し、入院中に望ましい「はきもの」に関する情報提供、多職種による転倒ラウンドを継続して実施しています。

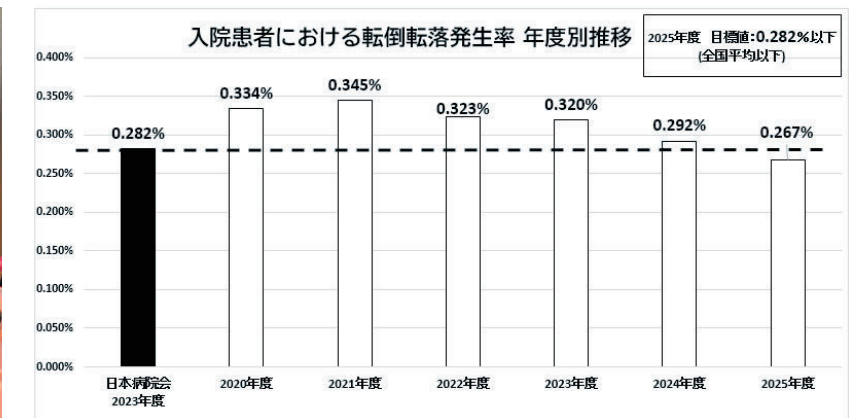
当院の転倒・転落発生率は、2020年度0.334%、2021年度0.345%と上昇していましたが、ワーキング結成後は2022年度0.323%、2023年度0.320%、2024年度0.292%、2025年度0.267%と低下傾向を示しています。

2025年度は、全国平均の指標である日本病院会の2023年度統計0.282%を下回りました。これらは、多職種で継続的に取り組んできた成果と考えられます。

今後も、患者さんに安心・安全な療養環境を提供できるよう、病院全体で対策を進めてまいります。



多職種による転倒ラウンド



当院入院患者さんにおける転倒転落発生率 年度推移 (日本病院会の2023年度統計を基準にした比較)

島大病院の空に「こいのぼり」が揚がりました

総務課総務係

2026年5月5日(火)の“こどもの日”を前に、今年も『島大病院こいのぼり掲揚セレモニー』を行いました。

前日までの雨が上がり、4月24日(金)当日の朝にはすっきりと晴れ渡り、心地よい風が吹く中での開催となりました。集まってくれたうさぎ保育所の子どもたちは、こいのぼりが揚がるのを待ちきれない様子でした。

椎名病院長からのお話の後、子どもたちが「こいのぼり」と「てのひらをたいように」の2曲を元気よく歌ってくれ、いよいよこいのぼりの掲揚です。

みんなで力を合わせてこいのぼりを揚げると、拍手と歓声が沸き起こり、こいのぼりは空高く舞い上がり、風を受けて悠々と泳ぎ始めました!

こいのぼりは、ゴールデンウィーク明けまで正面玄関前に掲げられ、ご来院の皆さまをお迎えました。

子どもたちの健やかな成長を願うとともに、空高く元気よく泳ぐこいのぼりが、患者さんにとって少しでも心安らぐひとときとなっていれば幸いです。

問合せ先 総務課総務係 TEL: 0853-20-2016



2026年6月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2026年6月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



ご報告

若手総合診療医の定着率88.1%を達成 島根発の教育モデルが地域医師不足解消の成功例として国際誌に掲載

総合診療医センター 助教 さかくち こうた
坂口 公太

第21回島根大学ICLSコースを開催しました！

高度外傷センター 救急救命士

まつおか きょう
松岡 冴 (コースコーディネーター)
あべ けいた みしろ かいせい
阿部 啓太・三代 魁生 (インストラクター)

2026年4月19日(日)、第21回島根大学ICLS (Immediate Cardiac Life Support) コースを開催しました。

このコースは、病院内における突然の心肺停止に対する最初の10分間、リーダーを中心に「迷わない、止まらない、重ならない」といった質の高いチーム蘇生・運用が実践できるように、知識・技術及びチーム医療を習得することを目的とした、日本救急医学会認定の教育コースです。

講習の内容は、①質の高い心肺蘇生、②除細動(AEDなど)の使用、③気道管理(気管挿管など)デバイスの使用、④薬剤投与(強心剤など)、⑤心電図モニター(命に係わる不整脈など)の判読、⑥チーム医療(役割分担など)など、実技が主となっています。

シミュレーション(シナリオ訓練)を通じて、受講者それぞれがリーダー役を経験し、インストラクターの指導・助言を受け、コース終盤にはチームが機能し、質の高い対応が提供できる様になります。また、基本的なことではありますが、クローズドループコミュニケーション(指示→復唱→報告)の反復及び確認は、今後の実臨床における事故防止等に繋がられるスキルとして、あらためてその重要性を各々が認識しました。

この講習を通じ、多職種が共通言語で繋がり、その救命の和(輪)が一つの命を繋げる!そんな一端を担う機会であったと感じました。

今後も地域の命を支え、安心して利用いただける医療機関として、さらなる研鑽に励みます。

問合せ先 高度外傷センター医局 TEL: 0853-20-2757



集合写真

日頃より、当院、総合診療医センターの活動、並びに医学生や医師の指導・受け入れに多大なるご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、当センターが展開する総合診療医の教育ネットワーク「Neural GP Network」の成果をまとめた論文が、総合診療領域の世界的なトップジャーナルである米国総合内科学会誌『Journal of General Internal Medicine (JGIM)』に原著論文として掲載されました。

本論文では、県内17の連携医療機関をオンライン(Virtual Office)で繋ぎ、地域で日常診療を行いながら大学と学術的な繋がりを持たせる「分散型・学術統合型の教育モデル」の成果を報告しています。若手医師の地方定着が全国的な課題となる中、本プログラム開始以降の専攻医42名中37名が現在も島根県内に定着しており、「88.1%」という極めて高い水準を達成しました。

この成果は、平素より現場で熱心にご指導くださる地域の医療機関の皆様との連携の賜物です。当センターは今後も皆様とともに、地域医療の最前線で活躍し続ける質の高い総合診療医の育成に邁進してまいります。引き続きのご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

写真1 総合診療領域のトップジャーナル『JGIM』に掲載された論文
A Decentralized, Academically Integrated Training Model for Rural General Practice in Japan: A Descriptive Program Evaluation

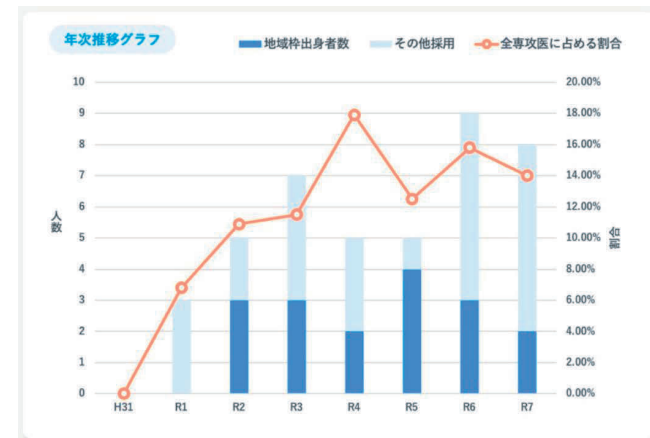
Kota Sakaguchi, MD, MBA¹, Takeshi Endo, MD^{1,2}, Yoshiniko Shirashi, MD^{1,3}, Makoto Kaneko, MD, MCISS, PhD^{4,5}, and Takashi Watari, MD, MHQS, PhD^{1,6}

¹General Medicine Center, Shimane University Hospital, Iizumi City, Shimane Prefecture, Japan; ²Okuzuma Hospital, Shimane, Japan; ³Okii Dozen Hospital, Shimane, Japan; ⁴Department of Health Data Science, Yokohama City University, Yokohama, Japan; ⁵Sagamihara Endowed Chair in Comprehensive Community Medicine, Kitasato University, Sagami, Japan; ⁶Integrated Clinical Education Center, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan

写真2 県内全域を繋ぐ教育体制「Neural GP Network」の概念図



写真3 島根県における総合診療専攻医師数の経年変化
総合診療専門研修プログラムの採用者数および地域枠出身者数
島根県における総合診療専攻医の年次推移



出典) 島根県 地域医療対策関係資料、島根大学医学部附属病院 総合診療医センター集計
※地域枠等とは、島根大学(地域枠・緊急医師確保対策枠、県内定着枠、学土地域枠)、鳥取大学(島根県枠)および県奨学金受給者を指す。

問合せ先 総合診療医センター TEL: 0853-20-2217





島根スサノオマジックと 乳がん啓発イベントを行いました

乳腺センター センター長 **かどや たかゆき**
 臨床遺伝・ゲノム医療センター 副看護師長 **角舎 学行**
あらき こ
荒木もも子

当院は、島根スサノオマジックと連携し、「がんに負けない未来をつくるプロジェクト」の第1弾として、2026年4月8日（水）にホームゲーム会場で啓発イベント「Breast Awareness & Pink Ribbon Event」を開催しました。

本イベントは、乳がんの早期発見・早期治療の重要性や、日頃から乳房を意識する生活習慣（Breast Awareness）を、地域の皆さまと共に考えることを目的としたものです。当日は多くの方にお立ち寄りいただき、会場は温かい関心と交流に包まれました。

特設ブースでは、当院の医療スタッフが乳がんの基礎知識や検診の大切さ、地域医療体制について、情報提供を行いました。「検診はどのくらいの頻度で受ければよいか」「どこで受けられるのか」といった質問に加え、「不安な気持ちはどこに相談できるのか」といった声も寄せられました。こうしたお声に触れ、正しい情報を届けること、そして安心につながる支援の重要性を実感しました。

また、島根スサノオマジックの選手が登場するオリジナルリーフレット配布やチャリティグッズ販売、募金にも多くの方にご参加いただき、心より感謝申し上げます。収益は、乳がん啓発活動や検診受診率向上、医療者育成、がん罹患した親をもつ子どもを支援するCLIMB®プログラムに活用予定です。

今後も本プロジェクトを通じて、地域の皆さまとともに「知ること」から始まる健康づくりを支え、がんに負けない未来の実現に取り組んでまいります。



参加メンバーとすさたまくんととの記念写真



リーフレット

協賛・デザイン / 写真協力：あしたの為の Design

問合せ先 **臨床遺伝・ゲノム医療センター TEL : 0853-88-3053**

